



川ヲ守ル人々 ～武～

軽川と桜づつみを育てる会

桜に彩られて

雑草やごみで荒れ放題だった軽川を見かねて地域の住民が立ち上がったのは、昭和五十年代のこと。

「春に桜が咲き誇るような川に」という願いを持って、昭和六十一年に『軽川と桜づつみを育てる会』が結成されました。建設省（現在の国土交通省）から「桜づつみモデル事業」の指定を受けて、「軽川桜づつみ」は平成三年に完成をみました。

平成六年から同会の会長を務める吉岡広夫さんは、「全く手を加えない自然は確かに素晴らしいのですが、安全性や衛生面から、ある程度、手を入れた自然、も必要だと思っています。みんなが安心してくつろげる場所であればならないですから」と言います。同会が中心となって定期的に川の清掃や草刈りを行い、汚染源がないか監視するなど、軽川や周辺環境を保つための



▲吉岡会長

地道な活動を続けてきました。今では身近に憩える空間として多くの人に親しまれています。



▲魚の放流

魚が遊び
花が咲き誇る川に

軽川では、同会の主催で毎年魚の放流も行われています。ウグイ・フナ・コイや、時にはナマズ・カニなどを放流しています。昨年の魚の放流には百人ほどの子どもが集まり、大人も含めると二百人を越す地域の人々が参加。今年は七月下旬に実施され、昨年同様子どもから大人まで多くの地域住民が参加しました。

「桜が散ってしまうと、花が少なくて寂しく感じる」ため、今年からは、魚の放流に併せて子どもたちによるミニ花壇の花植えも行っています。花壇が徐々に広がって、桜に負けないくらいの花が咲き誇るように、今後も続けていくそうです。

自然に触れて
豊かな心を

「散歩や憩いの場としてみんなが軽川に親しんでくれることが、私たちの喜びです。身近な自然に触れることで、自然の豊かさや大切さを感じてほしい。それによって多くの人の心が豊かになったり、気持ちや和んだりすれば、と思います。そのためにも、さまざまな生き物が共存しているように、川やその周辺の環境を保つことが不可欠です。地域の皆さんも本当によく協力してくれていますよ」と語る吉岡さん。天気の良い日には親子で川遊びに来る姿が見られ、小学生の課外学習などにも利用されているこの川は、これからも「ふるさとの川」として愛され続けていくことでしょう。

